


 最新のトピックス

TOPICS

Post COVID-19: 新たな社会様式に対応した発達障害児の家族支援

- 1) 信州大学医学部保健学科看護学専攻広域看護学領域
- 2) 信州大学教育学部教育科学

石田 史織¹⁾ 高橋 知音²⁾

I はじめに

近年, 世界中が Corona-pandemic によって日常生活や必要な支援等へのアクセスが阻害され未曾有の混乱に陥った。そしてこの公衆衛生上の危機は世界中の人々の心身の不調をきたす事態をもたらした。なかでも, 自閉スペクトラム症 (Autism Spectrum Disorder: ASD) や注意欠如多動症 (Attention-Deficit/Hyperactivity Disorder: ADHD) 等の発達障害特性を持つ子どもたちとその家族においては, 感染不安の高まりやサービス・支援を受けられなくなることによって日常生活スキルの獲得の機会等が減り子どもの発達の困難さを高めてしまう可能性が指摘されている。このような事態によって発達障害児のみならずその家族も精神的な苦痛をきたしストレスが増大していることが調査によって明らかになった¹⁾。そこで, この事態を改善するため, 新たな生活様式の中で実施された発達障害児の家族支援の国内外の取り組みを紹介する。

II 諸外国での取り組み

A Telehealth service を活用したペアレント・トレーニング (PT)

Zoom やオンデマンド教材, オンラインワークシート等を活用した PT プログラム (Parent program for disruptive behavior)²⁾ について紹介する。このプログラムは, ASD 等子どもの問題行動やスキルの障害に幅広く対応するために考案され, 子どもの不適応行動を減らし, 適切な社会的行動を獲得するための環境を整うことを目的とする。そのため, 問題行動に先行する刺激 (行動や状況) と, 問題行動を潜在的に強化している親や環境の反応を特定することを親に学ばせ, 子どもの問題行動の目的を理解し解決する方法と, 親が先行要因を管理し適切な結果を与えるための戦略 (正の強化, 計画的な無視など) を教える。また, 親の実践訓練として, 子どもの課題分析, 子どもの適応

行動を改善する手段を獲得することでプログラムの完了とする。全11回のセッションを毎週1回, 1回60分とし, 14週間にわたって実施された。毎回, セラピストによる講義動画の配信, セッション中のアクティビティシートが提供され, 疑問等をセラピストに質問する機会も設けられた。また, スキルのライブコーチングは行わずセッションに子どもは参加しないため, 親のペースで実施できるという利点もある。毎回, 保護者のスキルを支援するため専門家の指導があり, 子どもの行動に対する効果的・非効果的な対応のネット配信動画や, セッションで扱った教材のビデオが提供され親の理解促進のための工夫がなされた。親には毎週スキルに関連した宿題を子どもと一緒に練習する機会が設けられ, 次のセッションの開始前に専門家が確認し, さらに応用的なスキルが指導された。宿題は電子メールで送信され, 親は指定された記録ポータルに宿題の結果を記載しアップロードする仕組みとなっている (図1)。その結果をもとに, セラピストが行動支援計画を策定し親子のニーズに合わせたスキルの獲得を見立てた。この取り組みでは, 親の知識を向上させ, 家庭環境における子どもの問題行動の深刻さを軽減させるだけでなく, 対面で実施していた PT よりも親の出席率や満足度が高いという結果が得られた。これは, 参加する親の時間や移動の負担軽減となりより多くの親にプログラムを提供できる方法と言え, ASD 児とその家族に対する “telehealth service” の有用性が示された。

III 国内での取り組み

A インターネット親子相互交流療法 (Parent-Child Interaction Therapy: I-PCIT)

I-PCIT は, 1970年代に米国で開発された心理療法で, 親のリードで子どもと遊びながら親子でしつけを学ぶプログラムでウェブカメラを使い, 自宅での親子の交流をセラピストに中継し, セラピストは親が装着

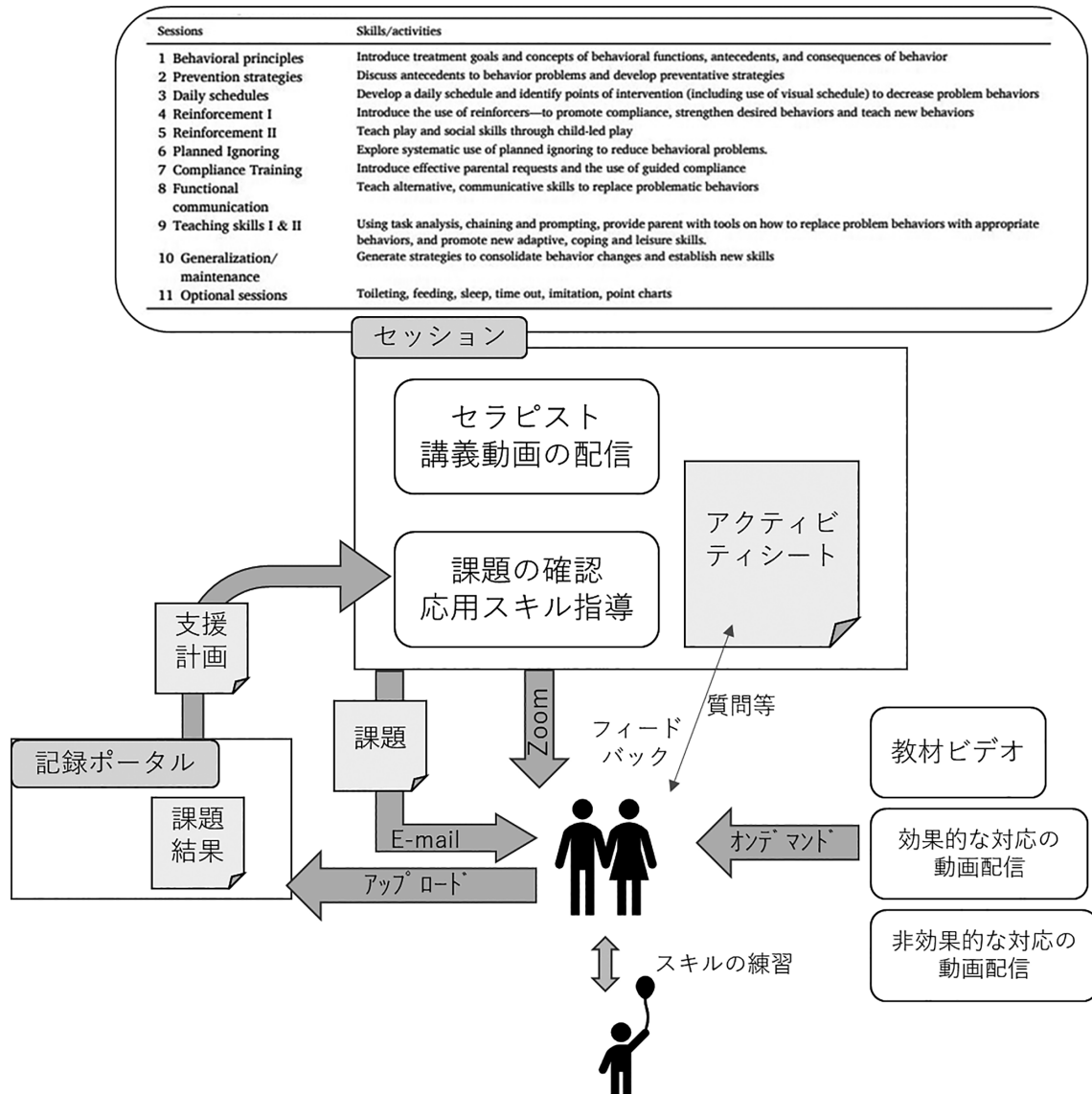


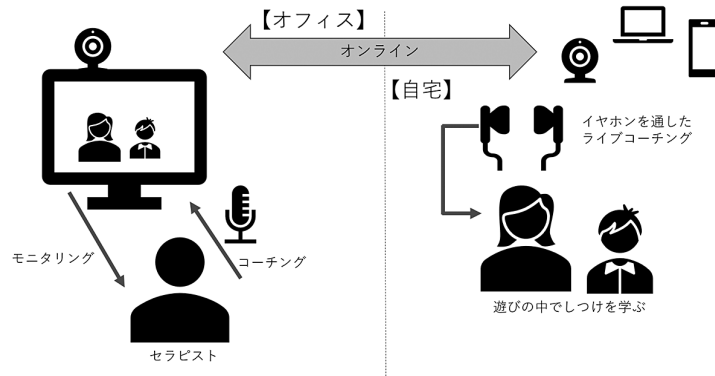
図1 Telehealth service を活用した Parent program for disruptive behavior の仕組み

しているイヤホンを通して遠隔でライブコーチングを行うものである³⁾。コロナ禍において、パソコンやタブレット等の日常的デバイスを用いた I-PCIT の実施の必要性は高まり、その成果として日常生活の現場で親子の関りをセラピストがリアルタイムに確認しコーチングできるメリットが活かされた。その結果、親子は行動変容のために獲得したスキルを家庭生活で般化でき、親子のニーズに沿った支援を継続的に提供することが可能となったことが示された。しかし、オンライン診療の場合収入が極めて低くなる実情から実施機関が十分な収入を確保できる仕組みが必要不可欠であると指摘されている (図 2 A)。

B オンラインソーシャル・スキル・トレーニング (SST)

発達障害の幼児に対して、「家族」「先生」「友達」とのコミュニケーション行動の獲得を支援する家庭用教材を作成し、オンライン発達行動支援を実施した⁴⁾。母親が家庭トレーニングの実施者となり、iPad 内の OneDrive に配信されたファイルを、スライドショー機能を使った簡単な操作によって SST を進めた。トレーニングは、1日1カテゴリーを週4日程度実施し、1回10~20分でカテゴリー内の課題を提示した (図 2 B)。その結果、3種類のコミュニケーション行動が獲得され、100%に近い正反応率で推移し、1か月後のフォローアップでも高い値を示した。母親の満足度調査の結果から子どもと母親間に加え、家族内のコミュニケーションが増えたこと、負担が少ないにも関わらず効果が表れたことなどから高い満足度が得られ

A : I-PCIT



B : オンライン SST プログラム

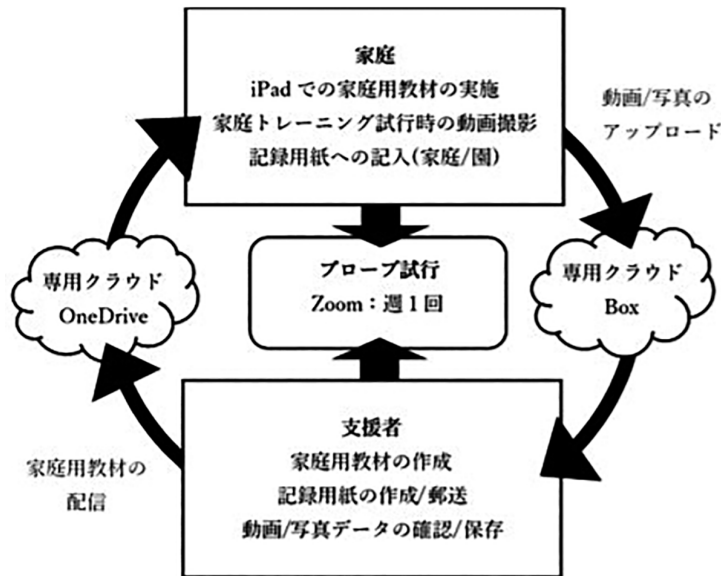


図2 国内の実践例の仕組み

ている。しかし、今後は多くの人が活用できるようにするため、開発したプログラムを保護者のスマートフォンに配信し、それが十分活用できるような支援プログラムの構築について検討する必要性が課題として挙げられている。

Ⅳ 発達障害児の家族支援の方向転換の必要性

Corona-pandemic によって、発達障害児の治療プログラムを中心に多くのサービスが“telehealth” “online service” “virtual service” など、新たな社会環境に合わせて遠隔で実施する手段の有効性が明らかとなり、従来の対面提供型からの方法の転換が求められている。加えて、家族支援においても同様にサービスの有効性だけでなく、利便性の向上や、サービスへのアプローチが容易になることで多くの親がPT等の発達障害児の育児プログラムに参加し、育児スキルの獲得やストレスマネジメント等を実施できるようになる

ことが期待される。今後は、対面だけでなくバーチャルの世界で専門家がどのように協力し合い、サービス提供体制を構築させていくのが課題となり、サービスの範囲や性質、提供する場など拡大させていくことが望まれる。

Ⅴ おわりに

新たな社会様式は、環境等への適応に困難さを抱える当事者とその家族にとって障壁となっている一方でメリットももたらし、今回紹介した新たな手法を用いた家族支援、育児支援の提供は、発達障害児とその家族のQOL (Quality Of Life) の向上に寄与することが期待される。そこで、ヘルスプロモーションの専門家である保健師は、好事例の蓄積に加え、当事者とその家族のニーズを施策につなげ社会環境の変化に合わせて健康的な公共政策づくりや支援的な環境づくりを推進する必要がある。

文 献

- 1) Luther G Kalb, Elena Badillo-Goicoechea, Calliope Holingue, et al: Psychological distress among caregivers raising a child with autism spectrum disorder during the COVID-19 pandemic. *Autism Res* 14 : 2183-2188, 2021
 - 2) Nathaniel A. Shanok, Erin Brooker Lozott, Marlene Sotelo, et al: Community-based parent-training for disruptive behaviors in children with ASD using synchronous telehealth services: A pilot study. *Res Autism Spectrum Disorders* 88 : 1-9, 2021
 - 3) 川崎雅子, 坂寄里紗, 加茂登志子: コロナ禍における子育て支援—インターネット親子相互交流療法 (Internet-delivered Parent-Child Interaction Therapy: I-PCIT). *子どものこころと脳の発達* 12 : 71-78, 2021
 - 4) 東 美穂, 富樫耕平, 大森由紀乃, 山本淳一: 発達障害幼児へのオンライン発達行動支援. *認知行動療法研究早期公開* : 1-13, 2021
-